

ちネット(認知症介護指導者仙台ネットワーク)

【活動目的】

認知症介護指導者の連携を深め、認知症介護実践研修の充実のために、指導者として今後取り組むべき課題の共有や、指導者の資質の向上及び地位の確立を図ると共に、仙台センターや関係機関との連携を通じて、認知症の人に対するサービスの質の向上や、認知症介護の普及に努めることを目的とする。

【活動内容】

(1)会員相互の交流の場や情報及び意見交換の機会を設けて、自己啓発及び自己研鑽に努められるよう支援する。(2)全国ネットワーク並びに各地域ネットワークの構築を推進すると共に、関係機関と必要な連携を図る。(3)指導者養成研修及びフォローアップ研修並びに認知症介護実践研修等に対する提言を行う。(4)認知症介護実践研修を効果的に実施できるよう指導者の位置付けを明確にして地位の確立を図る。(5)指導者の資質向上を図るため、仙台センターや関係機関と連携を図り継続研修会を実施する。(6)認知症介護に関する研究及び調査を実施して学識や技能の蓄積を図り、会員及び関係者に還元する。(7)地域社会に対して認知症の人への理解を促進し、認知症介護の学識や技能を提供することで地域福祉を推進する。

活動のきっかけ、背景

平成13年より痴呆介護指導者が養成される中、指導者単独では痴呆介護実務者研修の充実及び痴呆ケアの向上には限界があるのではないかと危惧してきた。とくに、痴呆ケアの向上には、実務者研修の充実が不可欠であり、そのためには、痴呆介護指導者のスキルアップと相互協力が重要であるとの認識に至る。そこで、仙台市の指導者数名に声掛けし、痴呆介護指導者ネットワーク仙台を平成14年に設立する。

活動の経過と成果

【活動の経過】

認知症介護指導者は単なる研修講師ではなく、認知症ケアの人材育成を担う研修企画者でもある。行政や研修委託先と対等に研修を企画するには、指導者同士のネットワーク化が不可欠と考え活動を開始した。具体的には、指導者が研修内容、研修委託先が研修運営、行政が研修実施責任者としての役割を担い、三位一体で企画・研修を実施する体制を構築した。このシステムを他の道県市に波及させる活動も併せて開始する。

その後、平成17年に仙台市及び仙台市介護研修センター、認知症介護研究・研修仙台センターの協力を得て、認知症介護指導者ネットワーク(ちネット)を仙台市において正式に設立。フォローアップ研修や調査研究の実施、機関紙の発行など、指導者の質の向上、情報の共有、連携強化に取り組んできた。これらの「ちネット」活動が、大府ネットや東京ネットの設立に繋がり、さらには全国ネットワークやその法人化に繋がり発展していく。

【活動の成果】

指導者は認知症介護実践研修等の企画・立案を行うプランナーや、研修の講義・演習・実習を担当するトレーナーの役割はもちろんのこと、認知症介護の質の向上に関わる指導・助言者としてのスーパーバイザーや、地域社会で認知症の人を支える啓発活動の先導役としてのインタープリター、保険・医療・福祉・教育・地域の調整役としてのコーディネーターなどの役割も担ってきているし、認知症施策にも参画している人も多い。

また、3センターとの連携では、認知症介護実践研修の平準化やテキスト作成、認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム検討委員会、eラーニングなど老健事業の検討委員会にも参画している。

今後の展望

認知症施策や社会ニーズの増大により、指導者を取り巻く環境が変化してきて求められるニーズも増大するなど、指導者の課題も多様化してきており、サポーター養成や認知症カフェ、地域支援など認知症研修以外のニーズへの対応も担っている。その反面、指導者の認知度は低く任務に見合った待遇や環境が整備されているとは言い難い。本業との板挟みで十分な活動ができず、指導者研修を修了しても活動を休止又は卒業している者も多い。指導者ネットワークとしては活動を活発化させ、行政や3センターとの連携を図りながら、資格化など指導者の地位の向上に努めるとともに、認知症研修の充実や認知症ケアの向上に取り組んでいく必要がある。